



太陽へとび矢

ジェラルド・マクダーモット さく

じんぐう てるお やく

ほるぷ出版 1975年 1470円

40ページ 25×29cm

太陽神の矢を受けた娘が産んだ男の子は、大きくなると父親探しの旅に出ました。途中で会った矢づくりの老人は男の子を矢に変えて太陽まで飛ばしました。太陽は息子を確かめるために、ライオン、蛇、蜂、稲妻の部屋を通過する試練を与えました。見事に通り抜けた男の子は、太陽の力と心を人間の国に届けるため大地に戻り、村人たちは生命の踊りで迎えました。ネイティブアメリカンに伝わる太陽の民話が、鮮烈なオレンジと黒を強調した絵で、力強く描かれています。4つの部屋を通り抜ける場面には文章がなく、リズムが直接心に響いてくるようです。成長するにしたがって自信に満ちてくる男の子の変化を見てください。



だるまちゃんくてんぐちゃん



だるまちゃんシリーズ

加古 里子 さく・え

福音館書店 1967年 780円

28ページ 19×27cm

だるまちゃんは、仲よしのてんぐちゃんのうちわや帽子を見ると、次々に同じようなものが欲しくなりますが、お父さんが用意してくれるものでは納めがいかず、自分で工夫して作ります。てんぐちゃんは得意そうなだるまちゃんを見てにこにこ顔です。二人はますます仲よしです。

大好きな友だちを真似したがる小さな子どもを、たしなめるのではなく叶えようとする家族、そして友だちの余裕と愛情が伝わってきます。だるまちゃんが自分で創造する様子はほほえましく、お父さんが花と鼻を勘違いする場面では笑いがこぼれるでしょう。お父さんが床いっばいに並べてくれた、たくさんのうちわや帽子のページは圧巻で、加古里子ならではの絵が楽しめます。